

実習後の反省と課題の導出が学生の成長に及ぼす影響

久松 尚美

The effects of post-practicum derivation of issues and reflection on student development

Naomi HISAMATSU

I 問題と目的

保育者養成校に在籍する学生は、保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のために必修となる保育所や福祉施設、幼稚園での実習を通して、保育者となるために必要な様々な知識や技術を学んでいる。そこでの学びや経験は、各々の実習だけの断片的なものではなく、次に迎える実習に向けてその都度反省や課題を見だし、継続的な学びとなるようつなげていくことが大切である。よって、その後の成長につながるよう指導することが、保育者養成校の教員に求められることであろう。では、学生が実習での学びや経験をその後の成長につなげられるように導くためには、何が必要であり、指導する上で重要なポイントとなるのであろうか。

実習に臨むに当たり、学生は各々自分自身の実習の目標・課題を設定している。それを達成するため、実習を迎えるまでに準備を整え、実習中も日々それらを意識して臨むこととなる。実習終了後には、設定した目標や課題がどの程度達成出来たのかも含め、その実習での自己の姿を客観性をもって冷静に振り返ることが求められる。達成できたことや至らなかったことの原因や根拠を掘り下げ考察することで、次の実習までに自分が成すべきことや、今後達成すべき新たな自分の課題や目標を見出せることにつながる。この一連の流れが、学生の成長をもたらすのではなからうかと考える。

これまで、保育士資格取得のための3つの実習、保育実習Ⅰa(第1回保育実習)、保育実習Ⅰb(施設実習)、保育実習Ⅱ(第2回保育実習)を通して、評価票と学生の自己評価の“ズレ”から学生の実習での学びについて、実習指導上の課題を見出してきた(佐々木・久松, 2015)。

山田・那須・森田(2011)は、集団で養成するデメリットを補う重要なデータとして、個人の実習における成長を確認できる評価票の活用が、事後指導の充実を図るものになるといえ、実習施設が学生を客観的に評価する指標であり、学生自身が実習の振り返りと今後の課題を見出す指標でもありとし、実習の評価にとどまらない評価票の有効な活用を示唆している。

実習中に試行錯誤しながらも、自分の目標を達成できた成功体験に基づく自信、あるいは子どもとかかわる中で心動かされた感動的な経験に基づくモチベーションの増加等も、学生の継続的な学びを支える要因となろう。様々な要因が考えられようが、ここでは「実習後の学生の反省と課題の導出」に着目したい。

以上を踏まえ、本研究では、同一実習先にて実施される2回の保育所実習「保育実習Ⅰa」「保育実習Ⅱ」(各2週間)における「評価票」及び「自己評価」を用いて、実習後の学生の反省と課題の導出が学生の成長に及ぼす影響を検討する。

II 方法

1. 調査対象者

保育者養成校に在籍する学生のうち、保育士資格取得を希望し、「保育実習Ⅰa」及び「保育実習Ⅱ」を履修したM短期大学保育科平成26年度入学者を対象とした。

・平成26年度入学者

「保育実習Ⅰa」〔第1回保育所実習〕(以下、Ⅰaと記す)

実習期間：平成27年2月18日～3月3日(2週間)

「保育実習Ⅱ」〔第2回保育所実習〕(以下、Ⅱと記す)

実習期間：平成27年11月4日～11月17日(2週間)

履修者：208名

2. 調査対象

平成26年度「Ⅰa評価票」

〔Ⅰaの実習先による学生評価：実習終了後、実習先より送付される評価票〕

平成26年度「Ⅰa自己評価」

〔学生自身による評価・振り返り：実習終了後、実習指導にて学生が取り組む自己評価シート〕

平成26年度「Ⅱ評価票」

〔Ⅱの実習先による学生評価：実習終了後、実習先より送付される評価票〕

「自己評価」「評価票」項目は以下の通りである。

- I. 「出勤状況について」(欠勤・遅刻・早退の日数, 連絡, 補充について)
- II. 「実習態度・日誌について」7項目を3件法評価
- III. 「実習内容について」(Ⅰa:8項目を5段階評価)(Ⅱ:10項目を5段階評価)
- IV. 「総合評価」(出勤状況・実習態度, 日誌実習内容から総合的に評価)5段階評価
- V. 自由記述(自己評価)・総合所見(評価票)

上記項目のうち、本研究においては以下3つの項目に焦点を絞り検討する。

①「Ⅰa評価票」〔実習先による学生評価〕

IV. 総合評価(A:とてもよくできていた B:よくできていた C:できていた Dあまりできていなかった E:全くできていなかった)の5段階評価

②「Ⅰa自己評価」〔学生自身による評価・振り返り〕

V. 自由記述(「出勤状況, 実習態度, 日誌の提出について」「実習内容について」「課題(保育実習Ⅰaを振り返って, これから自分が保育者として成長するためにどのようなことが必要だと思いますか。具体的に書いてください)」の3つの項目を提示)

③「Ⅱ評価票」〔実習先による学生評価〕

IV. 総合評価(A:とてもよくできていた B:よくできていた C:できていた Dあまりできていなかった E:全くできていなかった)の5段階評価

なお、①「Ⅰa評価票」と③「Ⅱ評価票」の実習先による学生評価「評価票」は、基本的に同一園からの評価となる。

Ⅲ 結果及び考察

1. 指標の概要

本研究では、「実習後の学生の反省と課題の導出」が「学生の成長」に及ぼす影響を検討するため、調査対象データを以下の指標において分析した。

「学生の成長」

調査対象学生の成長は、以下の基準にて群分けした。

【1】群分けの基準

学生の成長は、③「Ⅱ評価票」の5段階評価と、①「Ⅰa評価票」の5段階評価の差分（③－①）をその指標とする（差分得点）。算出にあたっては、Ⅳ. 総合評価（A：とてもよくできていた B：よくできていた C：できていた D：あまりできていなかった E：全くできていなかった）の5段階評価をそれぞれA：5点、B：4点、C：3点、D：2点、E：1点に換算して行った。その結果、差分得点は、-2～+2を示した（表1）。なお、ⅡとⅠaは同一実習先にて実施されており、個人内の園の違いによる影響は統制できるものとする。

表 1. 差分得点と学生数

差分得点	学生数
-4	0
-3	0
-2	3
-1	34
0	116
1	47
2	8
3	0
4	0
208	

実習ⅠaとⅡの「実習内容について」（Ⅰa：8項目を5段階評価）（Ⅱ：10項目を5段階評価）は本研究では取り扱わないが、評価内容や項目数が異なる。それを受けて、Ⅳ. 「総合評価」（出勤状況・実習態度、日誌実習内容から総合的に評価）5段階評価において、Ⅱの実習の方が高いレベルが求められることが想定される。よって、差分得点が0の場合であっても「成長した」とも解釈することもできるが、本研究においては下記の内容にて差分得点として取り扱うこととする。

「実習後の学生の反省と課題の導出」が「学生の成長」に及ぼす影響を検討するため、まず差分得点が-1と0の学生を「非成長群」、+1と+2の学生を「成長群」とした。なお、本研究では学生の成長に焦点をあてるため、今後さらに成長の余地のある「Ⅰa評価票」Ⅳ. 総合評価5段階評価のうち、C：3点、D：2点、（E：1点は該当者なし）の学生74名を対象を絞った（表2）。

表 2. 差分得点と I a 評価票 C・D 学生数

差分得点	C・D学生数
-4	0
-3	0
-2	0
-1	6
0	34
1	26
2	8
3	0
4	0
	74

「実習後の反省と課題の導出」

I a 終了後の実習指導にて、学生が取り組む「I a 自己評価」における V. 自由記述を、保育実習の主任である筆者が以下の二つの基準・観点より得点化した。

【2】得点化の基準・観点

(1) 「反省・課題導出の深度」(得点)

以下の基準にて 1～5 点と得点化した。

- 1 点：反省・課題が自由記述から読み取れない
- 2 点：反省・課題が曖昧
- 3 点：課題が何であるかは明確
- 4 点：反省・課題の根拠または課題を達成する手段が明確
- 5 点：反省・課題の根拠及び課題達成の手段の両方が明確

上記の基準にて得点化するにあたり、自由記述欄に学生が記入した具体例を表 3 に示す。

(2) 「目標の適正性」(得点)

「目標のレベル」、「目標の達成可能性」、「目標の保育との関連性」という 3 つの観点により得点化 (1～5 点) した。

上記の観点にて得点化するにあたり、自由記述欄に学生が記入した具体例を表 4 に示す。

表3. 「反省・課題導出の深度」の得点化と具体例

得点	得点化の基準・観点
1点	反省・課題が、自由記述から読み取れない 該当者なし
2点	反省・課題が曖昧 保育実習を12日間終えて、自分に足りない物はたくさんあったと思います。まず、自分から積極的に先生方に質問することが出来ませんでした。なので、自分が疑問に思ったこともあまり聞けず後悔してしまいました。なので、次の実習ではこの失敗を活かすことのできるようにしたいです。 その年齢にあった援助などができること。また声掛けもそうです。子どもの小さな声にも応えていくことも大切だと前に先輩の保育士さんが来られた時に聞いたので、私は保育園で実習した時にそういうことは出来ていなかったもので、子どもの声のわかる先生になりたいなと思いました。 読み聞かせやピアノはもちろんですが、いろいろな動きを身につけることを課題にしようと思います。子どもたちは歌に合わせて動物の動きをしたり自分なりの動きをしたりします。そこでより一層子どもたちが楽しめるようにするには「先生も一緒に動く」ということだと思います。先生が恥ずかしがったり、ごこちない動きをしていたらダメなので、わたしは一生懸命いろいろな動きを練習しようと思います。
3点	課題が何であるかは明確 子ども達をよく観察し、何がしたいのか、何をしているのかをよく考えて行動できるようになりたいです。子ども達に親しみを持ってもらえるような笑顔で明るい先生になりたいです。 私が実習中に自分に必要だと感じたのは、まだ言葉を発する事ができない子どもが何を伝えたいのか、何を思っているのかを感じ取る力が足りないと思いました。他にも、子ども達と一日中一緒に動き回る体力、重い物を運んだりする筋肉などがあり、これから就職をするまでに子ども達の気持ちをくみ取る力と、自分自身の体力向上、筋力をつけていきたいです。 まだ自分に足りていないのは手遊びやピアノ、子どもの援助方法時の知識、けがやけんかの時の対応方法などあげたらきりがないので、まずは手遊びなどやれる事から少しずつついでいこうと思いました。
4点	反省・課題の根拠または課題を達成する手段が明確 子ども達と積極的にかかわり、コミュニケーションをきちんと取っていくことが必要だと思いました。しっかり取っていくことで、子ども達は安心感を少しでも持てるのではないかなと思いました。また、おもちゃの取り合いの時の仲介の仕方などもしっかり身につけたいです。おもちゃの取り合いをしていましたが、上手く子ども達と話すことができませんでした。子ども達に伝わってなくて納得していない様子だったので、勉強して身につけたいです。 まず一つ目が子どもたち全員と平等に接すること。元気のいい子や活発な子はすぐに名前を覚え遊んだが、大人しい子や人見知りの子とは関わりが少なくなりました。二つ目は、ピアノ。間違えても止まらず、子どもたちが歌いやすいように歌詞を先読みできるくらい上達できるようにしたい。三つ目は、手遊びなど絵本を読んだり何かを始める時の導入の仕方を、先生方を良く見て学びたい。四つ目は、日誌をもっと短時間で書き、誤字脱字が減るように見直していきたいです。 私はまだ、保育者としてというよりお姉ちゃんとして子どもたちに関わっていたような気がします。子どもたちから「先生」と呼ばれることで、少しずつ意識は変わってきましたが、まだまだ保育者としての自覚が足りないなと感じました。また、子どもと関わることに精一杯になり、保育者の視点で見ることができていませんでした。この活動でどんな発育・発達を促すのかをしっかりと考えながら保育に携わっていきたいです。
5点	反省・課題の根拠及び課題達成の手段の両方が明確 声の大きさと表情の明るさ、子どもへの目配りの仕方が課題だと思います。実習中は、声を大きくし、笑顔で子どもと接しているつもりだったけど、先生方からそのことを指摘され、もっと努力が必要だと思いました。授業の発表の声の大きさなどに気をつけながら、声を明るく大きく出す練習をしていこうと思いました。子どもへの目配りは、一人の子どもだけでなく、クラス全体を見なければいけなく、普段から周りへの気配り、目配りをすれば、子どもに対してでもできるのではないかと思い頑張ろうと思いました。 この実習を通して私は人前に立って何かをすることを恥ずかしく感じないように堂々としていることが大切だと思いました。私は子ども達の前に立つとまだまだ声も小さくて、子どもたちの興味をひくような導入もうまくできませんでした。なので、これから積極的にボランティアなどに参加をして、人の前でピアノを弾いたり手遊びをしたり、話をしたりという機会をもっと増やしていこうと感じました。幼稚園実習までにはこの苦手を克服しておきたいです。 私は二つあると思います。一つ目は、子どもと積極的に関わることです。(同じクラスに)2日ずつだったのですが、毎回1日目に子どもたちと上手く話せなくて、2日目にいつも後悔していたので、子どもたちの様子を見つつ、自分から話しかけようようにしたいなと思いました。二つ目は、日誌の書き方です。先生方から何度か指導があり、方言や言葉遣い、誤字脱字がたくさんあることに気づきました。自分が丁寧語だと思っていることが違っていたりしたので、もっと漢字の誤字脱字や言葉遣いに気をつけたいし、学んでいこうと思いました。

表4. 「目標の適正性」の得点化と具体例

得点	「目標のレベル」「目標の達成可能性」「目標の保育との関連性」
1点	
具体例 ①	積極性！最後の日に園長先生からもっと積極的になって人なつこい人になったほうがいいと言われたから。
具体例 ②	保育者として成長するために、テキパキと動けることが必要だと思いました。積極的に取り組むことはできたけどまだ行動にとりかかるのが遅かった部分があったので、頼まれることがあったり自分で保育する際に動けるようになりたいです。自分を見直し、できなかった所はしっかりと見直し、できた所はもっと向上するように努力していきたいです。
2点	
具体例 ①	保育者として成長するためには、まずは体力勝負だと感じました。今回の実習で保育士という仕事はすごく体力を使う仕事だと思った。私は体力的に最終日に近づいた時、風邪をひいてしまって声が出ず、絵本を読んだり手遊びをする事が出来なかった。なので、自分の体調管理をしっかり行う必要があると思いました。また自分から積極的に質問をしたり子どもたちとかかわりあうことが大切だと思う。
具体例 ②	今回の実習を振り返ってみて、私は的確な判断が必要だなおもいました。一步間違えれば、子どもの命がかかっている仕事なので何よりも子どもの安全を第一に考え、どうしたら子どもが楽しく活動できるかを考えられる人になりたいと思いました。私は判断を即決に決められないので、その部分ができようになりたいと思いました。
具体例 ③	まずは技術と経験が必要だと思いました。ピアノにしても子ども達への声掛けや手遊びも全然ダメだと思いました。そして経験は知らないことが多かったです。自主的に実習に行き経験も積もうと思いました。
3点	
具体例 ①	今回の実習を通して、やはり挨拶はすごく大切だと思った。各部屋の先生方に挨拶することで、全体でのコミュニケーションをすることができ、状況も把握できるので、しっかり挨拶することが大切だと思った。また、わからない事は遠慮するのではなく、進んで質問する事が何よりも重要だという事を学んだ。分からないことをそのままにしておく、分からない事が増えてしまうので、失敗を恐れず、自ら行動できるようにしたい。
具体例 ②	実習で、分からないことや疑問に思ったことはすぐ先生方に質問し、その時に納得するということを目指していました。しかし、先生方の忙しそうなお姿を見るとひるんでしまい、なかなか質問することができませんでした。ですので、成長するために、わからないこと等があった場合はすぐ質問し、納得できるようにしたいです。また、どんなに疲れていても笑顔を忘れないということがとても大切だと感じました。
具体例 ③	私は実習中、本を読むことが何度かありました。先生方と比べてみると、感情が入っておらず、ほぼ棒読みになっていました。授業の中でも読み方の練習をしました。今の自分に足りないものは、その本に出てくるものに対して気持ちが生み出せないということです。そのためには、そのものになりきるということです。なりきると子ども達にも届きやすくなると思います。日々練習していきたいと思いました。
4点	
具体例 ①	子どもの年齢、月齢にあった成長過程や援助についてもっと学ぶことが必要だと思いました。今回の実習を思い返しながら学んでいけたらいいです。また、絵本の読み聞かせや、子ども達と遊べるゲーム、手遊びなどを多く身につけていきたいです。そして、ボランティアなどを通し、実習以外にも園へ行き、子ども達や先生の姿を実際に見ることで保育について学んでいきたいです。
具体例 ②	私は人見知り子どもたちの前で手遊びなどをするのが少し緊張するため上手く表現できなかったことが反省点です。もっと子どもたちの様子を見たり一人ひとりその子にあった声掛けが出来るように接することが大切だと思いました。これからの実習で私は子どもたちのことやたくさんのお話を保育者の方々に質問できるように頑張りたいです。また年齢に応じた手遊びや絵本をそういう場になってすぐ出来るように練習したり調べたりすることが必要だと思いました。
具体例 ③	今回の実習を振り返って思うことはまず、積極的に質問する勇気が必要だと思いました。その場で質問することができていなかったため、次の実習ではその場で質問し、解決したことはすぐ実践していきたいです。あと、もっと視野を広くして、子どもたちと関わられるようにしたいです。同じ子どもたちとばかりではなく、たくさんのお話を子どもたちと仲良くなれるようにしたいです。日誌は少しずつ書き方のコツをつかめてきている気がするので、指導して下さったことをすぐに直せるようにしたいです。
5点	
具体例 ①	今回の実習では、全体の前で手遊びや読み聞かせ、紙芝居をさせていただく機会がたくさんありました。自分から積極的にできていたと思うし、先生方から大きな声、大きな動き、笑顔がとても良かったよと言ってくれたのですが、園の先生方の手遊びを見ていると、導入から子どもたちは楽しそうにしている、導入の大切さを改めて感じたと同時に、私はもっと勉強・練習し、そして実習をさせていただく時には、自分から積極的にさせていただき、子どもたちをひきつける技術を身につけなければならないなと思いました。
具体例 ②	実習中に一番迷ったり困ったりしたことは、子ども同士のトラブルや、子どもが悪いことをした時の対応です。トラブルの対応はその子どもの年齢や状況を考えてしないといけないと思います。年齢によってトラブルの原因も変わるし、しっかりお互いの意見を聞いて解決しないといけないことが難しいと思いました。また、子どもが悪いことをした時はしっかり何がだめなのか伝えて指導することが大切だとわかってはいたけれどできませんでした。こういう対応もしっかりできるようにしたいです。
具体例 ③	私はこの実習でたくさんの課題が出てきました。実習中に改善したものもあるけど、まだまだたくさんのすべき準備があると思います。自分が成長するために何が必要か考えた時に出てきたのは、もっと子どもと会話することだと思っています。やはり、保育園の先生方は子どもと同じ目線でしっかりと話せていたと思います。自分もこのようにしっかりと子どもの目線でやさしく語りかけられる保育士になりたいです。

「反省・課題導出の深度」と「目標の適正性」の平均値を表5に示す。

非成長群における「反省・課題導出の深度」・「目標の適正性」の得点平均を、成長群はいずれも上回る結果となった。

表 5. 反省・課題導出の深度 目標の適正性 平均値

C・D 学生数	反省・課題導出の深度	目標の適正性
非成長群(40人)	3.55	3.08
成長群(34人)	4.41	3.74

2. 「反省と課題の導出」が「成長」に及ぼす影響

次に両群の「反省・課題導出の深度」, 「目標の適正性」を比較するために, 群を独立変数, 各得点を従属変数とした対応のある t 検定を行った。その結果, 両得点において群間に有意差がみられた (反省・課題導出の深度 : $t(60.56) = 4.95, p < .05$, 目標の適正性 : $t(71.90) = 3.53, p < .05$) (図1)。

よって, 実習 I a 終了後に実習での自己の姿を客観性をもって冷静に振り返り, 適正な今後の目標を立てることが, その後の実習 II における学生の成長をもたらすことが示唆された。

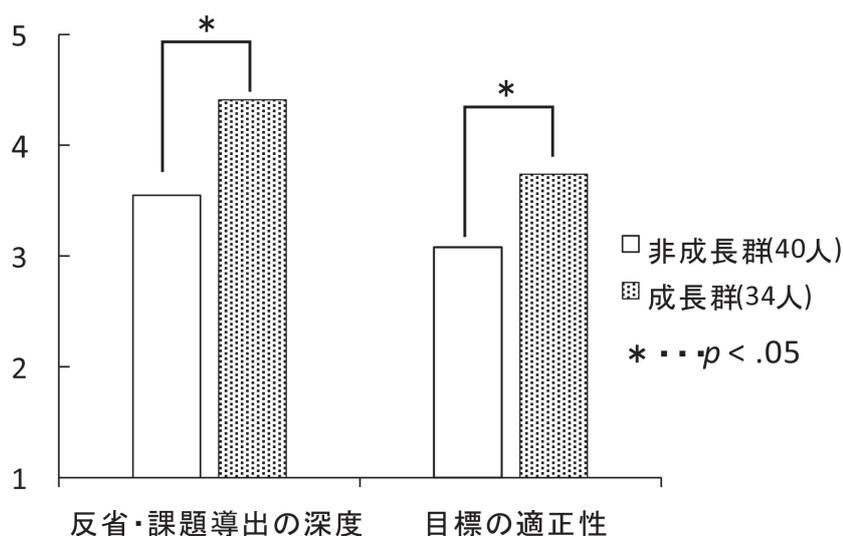


図1. 非成長群と成長群の各得点の平均値

3. まとめと今後の課題

I a 終了後に, 目標がどの程度達成できたか自己の姿を振り返り, 達成できたことや至らなかったことの理由や根拠を考察し, 新たな自分の課題・目標を適正性をもって見出す。その試みにより, 実習 II における学生の成長をもたらすことが本研究により示唆された。今後は適切な実習後の反省と課題の導出を促す要因を明らかにし, それを基に効果的な実習指導内容を開発していくことが課題である。

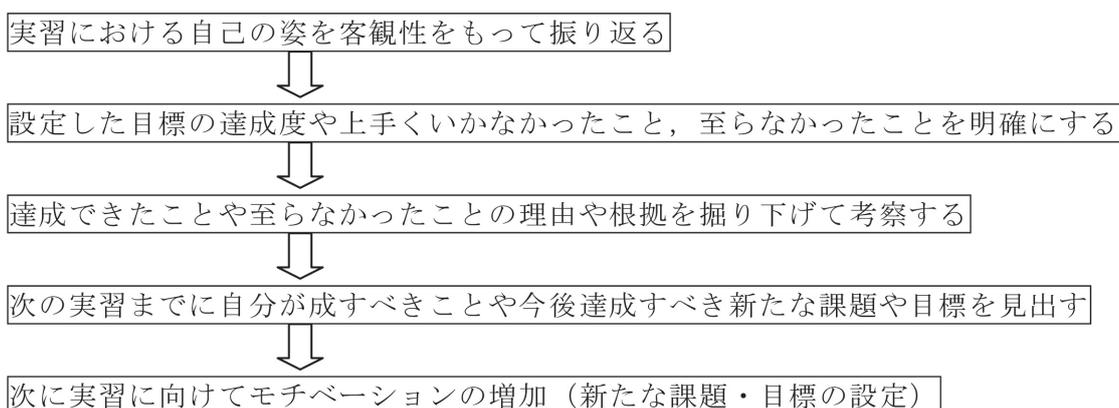
今後の課題, 実習指導内容の改善点を以下に述べる。

(1) 実習目標・課題設定時の指導の充実

実習終了後に、設定した目標がどの程度達成できたかを振り返る事になるが、実習に臨む前に適切な実習の目標を立てることが出来なければ、実習前の準備や実習中の日々の振り返り、及び実習後の振り返りも内容の充実が期待できない。よって、初めて臨むⅠaの実習に向けての実習目標・課題の設定において、具体例を示しながらきめ細やかな指導が必要であると考ええる。

(2) 「自己評価」〔学生自身による評価・振り返りシート〕記入用紙の改善

V. 自由記述には、「出勤状況、実習態度、日誌の提出について」「実習内容について」「課題（保育実習Ⅰaを振り返って、これから自分が保育者として成長するためにどのようなことが必要だと思いますか。具体的に書いてください）」の3つの項目を提示し、実習事後指導にて学生が記入している。本研究においては、学生が記入した自由記述を、「反省・課題導出の深度」と「目標の適正性」の二つの基準・観点より得点化する作業を行った。反省・課題の根拠及び課題達成の手段の両方が明確に記入されており、目標のレベル、目標の達成可能性が適正であり、保育との関連性が見られる記述が、実習Ⅱにおける学生の成長をもたらす結果を踏まえると、自己評価記入用紙の改善の試みが今後の課題となり得る。



上記の流れにて各項目内容を深めることができるよう、一人ひとりの自己評価を促す自己評価記入用紙を作成したい。

(3) 実習報告会の実施

実習後の自己評価はあくまでも個人の中での振り返りとなる。よって、より多角的な視点を得るためには、他者と実習内容や学び、今後の課題等を共有することで、自己の振り返りも深まり、新たな自分の課題・目標を適正性をもって見出すことが期待される。また、実習報告会を実施するにあたり、実習前指導にて報告会の予告を行い、実習前に実習報告書の記入用紙を配布し、実習中にその都度記入していくことを試みたい。

実習報告書は以下の項目を検討する。

1. 実習先の概要（保育目標・保育方針・園の特徴）
2. 自分の設定した実習の目標・課題
3. 実習前に行った準備（知識の再確認・研究保育準備・指導案作成・ピアノ・手遊び歌のレパートリー・製作・準備物確認・体調管理など）
4. 実習内容（配当クラス・勤務時間・具体的な活動内容・部分保育・研究保育・半日保育・全日保育など）
5. 子どもから学んだこと（子どもとのかかわりを通して気づかされたことなど）

6. 先生方から学んだこと (子どもに対する働きかけ・援助の方法・トラブルへの介入方法・保育環境整備・児童文化財の活用など)
7. 先生方からいただいた具体的なアドバイス
8. 研究保育の内容 (対象年齢・具体的な活動内容)
9. 研究保育を通して理解したこと・気づいたこと
10. 後輩に伝えたいこと (2年生)
11. 今後の課題

また、1・2年生合同実習報告会を実施することで、これからI aに臨む1年生にとっては実習の目的を設定する参考となり、実習に対する不安軽減とモチベーションの増加につながることが期待される。IIを終えた2年生にとっては、これまでの実習の集大成として他者に実習の成果を報告することで、自分の成長を実感できる場ともなる。また、社会人として保育者として今後成長するための目標を明確にし、継続的な自己の向上を促すことにつながることが期待される。

学生が実習での学びや経験をその後の成長につなげられるように導くために、まずは上記3点を中心に実習指導の改善に努め、学生の継続的な学びにつなげることができるよう試みたい。

引用文献・参考文献

久松尚美. (2016).

実習後の反省と課題の導出が学生の成長に及ぼす影響. 全国保育士養成協議会第55回研究発表論文, 107.

佐々木昌代 久松尚美. (2015).

保育実習における評価の“ズレ”の分析. 宮崎学園短期大学紀要, 7, 95-105.

山田朋子・那須信樹・森田真紀子. (2011).

保育士の質向上につながる評価票ベースの継続的実習指導. 中村学園大学・中村学園短期大学部研究紀要, 43, 133-142.

全国保育士養成協議会. (2007).

保育実習指導のミニマムスタンダード—現場と養成校が協働して保育士を育てる—. 北大路書房.